



決算説明資料

2005年11月30日

SECURE THE FUTURE
IMV CORPORATION

本日のご説明内容



➤ 会社概要・事業内容

会社概要・事業内容などについてご説明します

➤ 決算の概要

2005年9月期決算についてご説明します

➤ 業績予想及び今後の戦略

2006年9月期の業績予想とそのため戦略をご説明します



会社概要 事業内容

SECURE THE FUTURE

IMV CORPORATION



会社概要 (2005年9月期:連結)

- 社 名 : IMV株式会社 (英文社名:IMV CORPORATION)
- 設 立 : 1957年4月17日
- 事業概要 : 振動シミュレーションシステム及びメジャリングシステムの製造・販売
及びテスト&ソリューションサービスの提供
- 代 表 者 : 代表取締役会長兼社長 小嶋 成夫
- 売 上 高 : 5,088百万円
- 経 常 利 益 : 621百万円
- 資 本 金 : 464百万円
- 従 業 員 数 : 175人 (46名の臨時従業員含む)
- 本社所在地 : 大阪市西淀川区竹島2-6-10
(本社/R&Dセンター/大阪工場/東京工場/東京支店/大阪営業所
/名古屋営業所/東京テストラボ/大阪テストラボ)



沿革 ~ 会社更生法からの再建

- 1957年 4月 株式会社国際機械振動研究所を設立
- 1974年 10月 会社更生法を大阪地裁へ申請
小嶋成夫(現社長)が更生管財人として自力再建を開始
- 1985年 7月 残3回の弁済計画を繰り上げ、会社更生手続きを終結
- 1994年 11月 日東精機(株)(現連結子会社)を100%子会社化
- 1998年 4月 国内初のテストラボ専用施設を完成(東京工場敷地内)
- 2005年 5月 本社・大阪工場を大阪市西淀川区に移転・統合
- 2005年 6月 大阪テストラボ開設
- 2005年 7月 JASDAQ証券取引所に上場

事業の概要と構成比



振動シミュレーションシステム

一般工業製品や建築土木構造物がそのライフサイクルにおいて予想される振動環境を再現し、振動に対する耐振性及び改良の必要性等を評価、判定するための試験装置です。



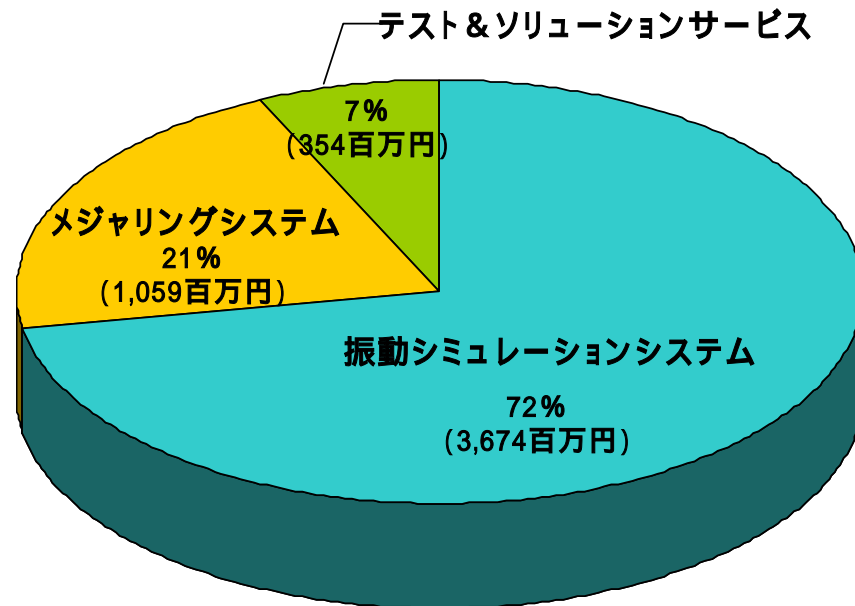
メジャリングシステム

工業製品、設備機械、建築・土木構造物などに発生している振動を監視し、データとして収録後、解析処理する装置です。設備機械の劣化診断、地震災害時の設備緊急制御等に用いられます。



テスト&ソリューションサービス

顧客からの振動試験委託及び解析要請を受け、振動試験の受託やコンサルティング等を実施しています。様々な顧客層のアウトソーシング需要の取り込みを図っており、成長が期待される分野です。

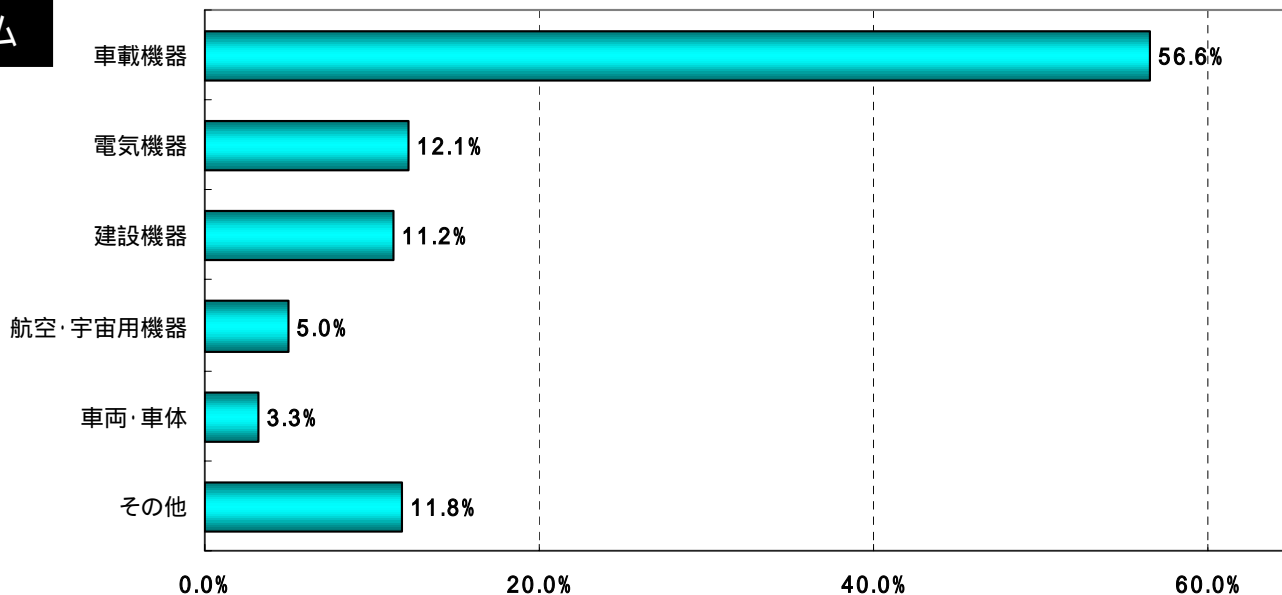
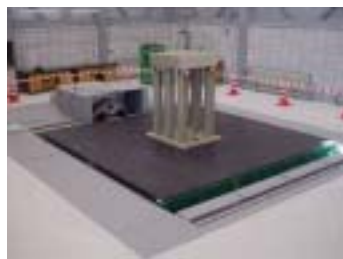


売上高構成 (05/9期(連結))5,088百万円)

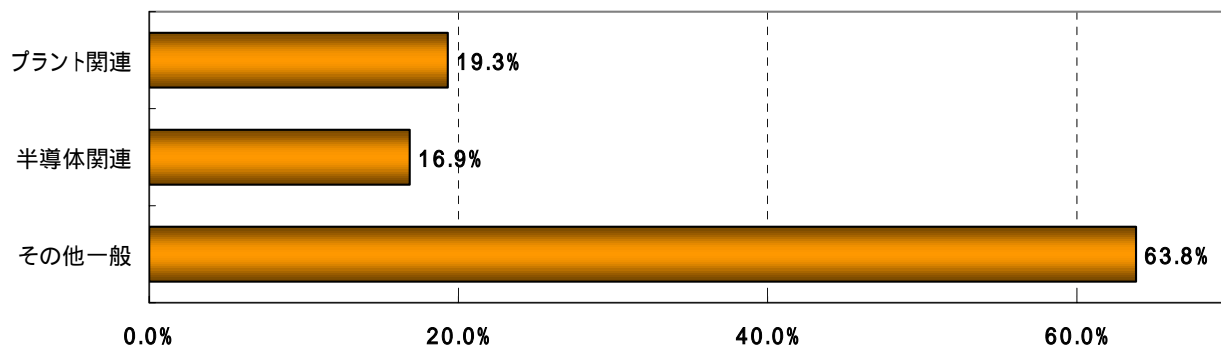
産業別販売先



振動シミュレーションシステム



メジャリングシステム

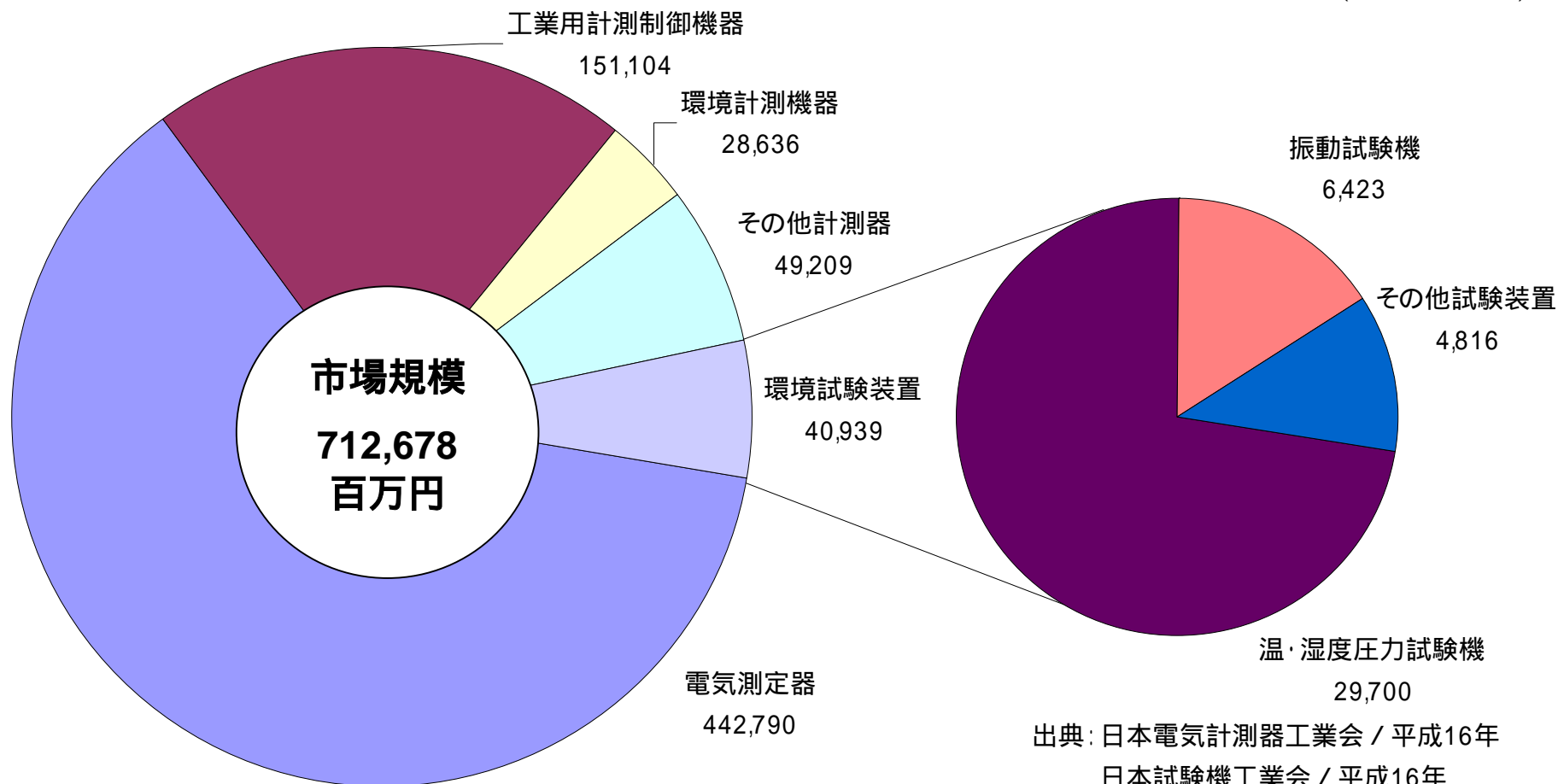


(05年9月期実績)

事業領域の市場規模



(単位:百万円)



出典: 日本電気計測器工業会 / 平成16年
日本試験機工業会 / 平成16年

強みは開発力



充実した開発体制

R & Dセンターの設置

開発従事員:44名

特許化されたコア技術

保有特許:30件(05/9末時点)

(海外特許3件含む)

国内外研究機関等との連携

(独)産業技術総合研究所

大阪府立産業技術総合研究所

北海道立北方建築総合研究所

東京大学生産技術研究所

東京工業大学

横浜国立大学

Imperial College (英国)





決算の概要

SECURE THE FUTURE
IMV CORPORATION



➤ 増収増益

振動シミュレーションシステム、メジャリングシステム、テスト&ソリューションサービスの3品目全て増収で連結売上高は前期比17.3%増加の5,088百万円となりました。

➤ 過去最高益

当期利益は前期比52.7%の大幅増収の476百万円となり、連結決算開始以来、2期連続の過去最高益を実現しました。

➤ 財務体質向上

増資と過去最高益により株主資本比率が30%を超えるなど財務体質が向上しました。

連結損益計算書の概要



(単位:百万円)

| | 04年9月期 (実績) | 05年9月期 (実績) | 対前期 増減額 | 対前期 増減率 | 05/9月期 (予想) | 予実 差異 | 業績予想 達成率 |
|-------|----------------|----------------|------------|------------|----------------|----------|-------------|
| 売上高 | 4,336 | 5,088 | + 752 | + 17.3% | 5,053 | + 34 | + 0.7% |
| 売上総利益 | 1,553 | 1,633 | + 79 | + 5.1% | 1,613 | + 19 | + 1.2% |
| 営業利益 | 595 | 602 | + 7 | + 1.3% | 591 | + 10 | + 1.8% |
| 経常利益 | 565 | 621 | + 55 | + 9.9% | 608 | + 12 | + 2.0% |
| 当期利益 | 312 | 476 | + 164 | + 52.7% | 417 | + 59 | + 14.4% |

| | | |
|----------|--------|--------|
| 1株当たり利益 | 39.43円 | 59.90円 |
| 1株当たり配当金 | 6.0円 | 7.5円 |

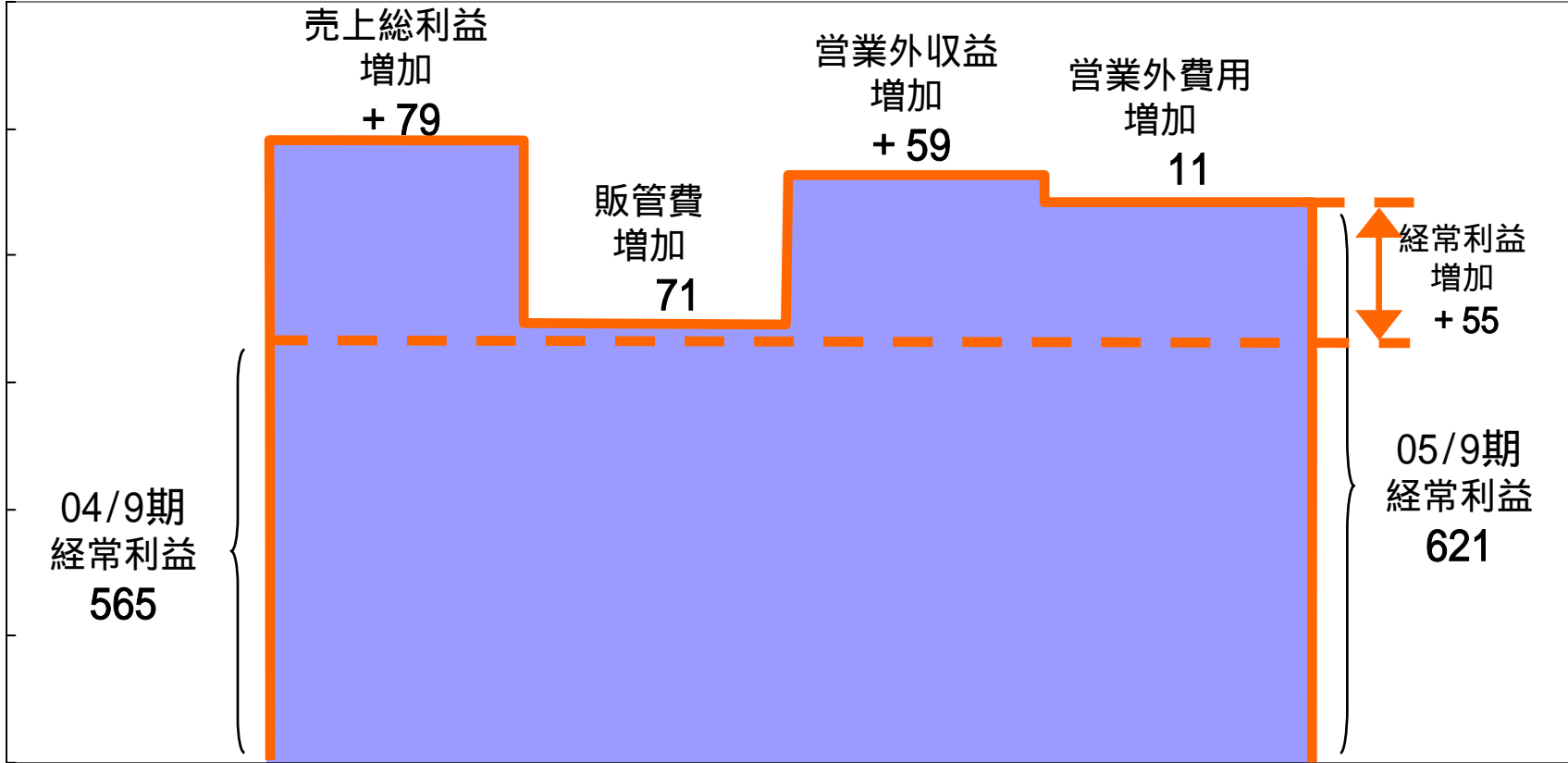
各品目とも順調に推移した結果、第3四半期業績発表時に上方修正した予想を売上、利益とも上回る結果となり、連結決算開始以来2期連続の過去最高収益となりました。

上場記念配当1円を含む1.5円の増配予定。



連結経常利益増減要因

(単位:百万円)



売上増加に伴い、売上原価、販管費が増加しましたが、営業外収益の増加があり、05/9期経常利益は04/9期と比べ55百万円増加の621百万円(対前期比9.9%増)となりました。

連結貸借対照表の概要



(単位:百万円)

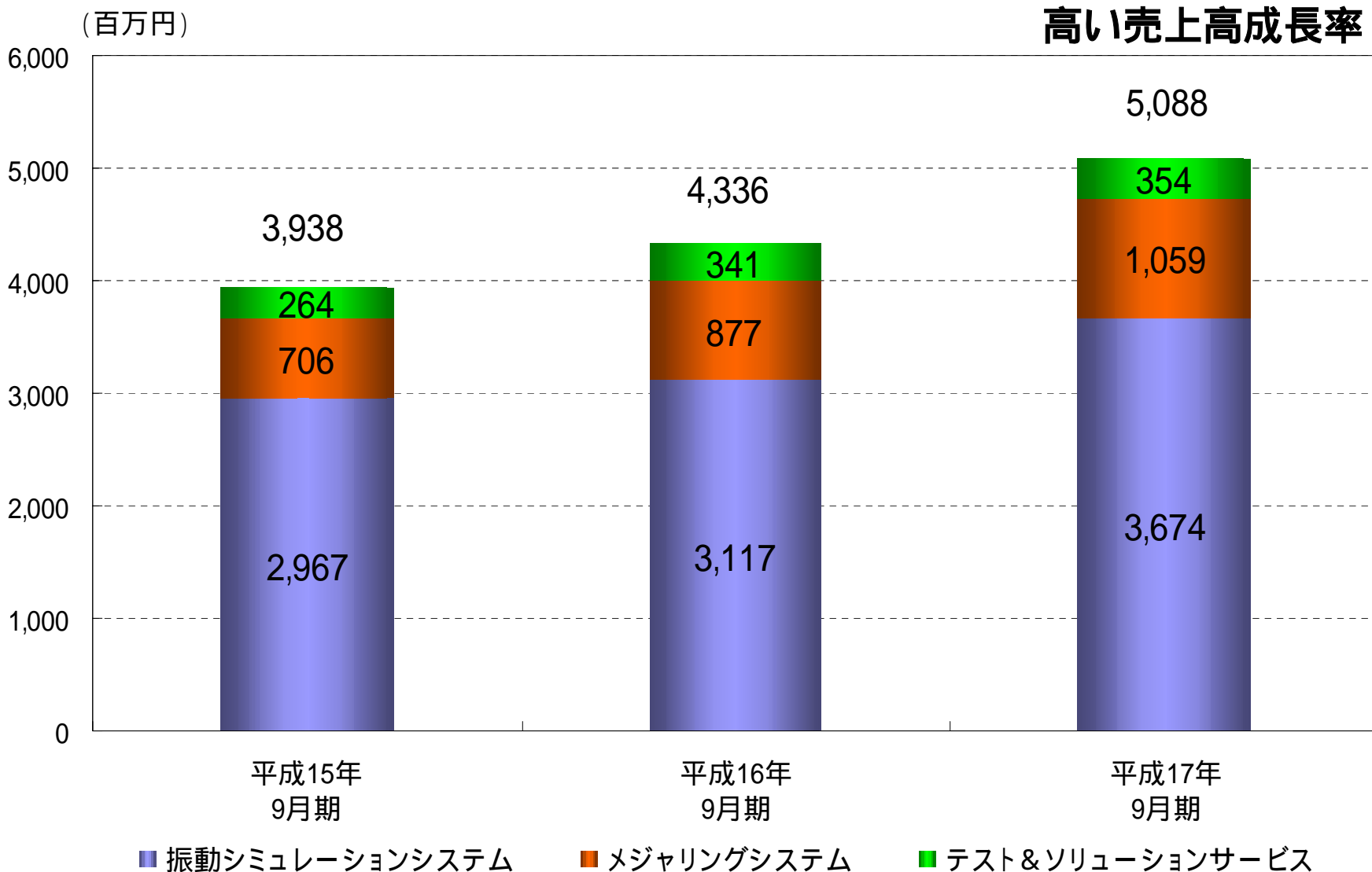
| | 04年9月期 | 05年9月期 | 増減 | | 04年9月期 | 05年9月期 | 増減 |
|---------|--------|--------------|---------|---------|--------|--------------|---------|
| 流動資産 | 2,794 | 3,235 | + 440 | 流動負債 | 2,062 | 2,986 | + 924 |
| 現金預金 | 523 | 568 | + 44 | 仕入債務 | 970 | 994 | + 23 |
| 売上債権 | 1,372 | 2,003 | + 630 | 短期有利子負債 | 480 | 1,561 | + 1,080 |
| 棚卸資産 | 787 | 573 | 213 | その他流動負債 | 610 | 430 | 180 |
| その他流動資産 | 111 | 90 | 20 | 固定負債 | 1,083 | 1,656 | + 573 |
| 固定資産 | 1,395 | 3,414 | + 2,018 | 長期有利子負債 | 549 | 1,191 | + 641 |
| 有形固定資産 | 723 | 2,751 | + 2,027 | その他固定負債 | 534 | 465 | 68 |
| 無形固定資産 | 114 | 107 | 6 | 負債合計 | 3,146 | 4,643 | + 1,497 |
| 投資その他資産 | 557 | 554 | 2 | 資本合計 | 1,044 | 2,006 | + 962 |
| 資産合計 | 4,190 | 6,649 | + 2,459 | 負債・資本合計 | 4,190 | 6,649 | + 2,459 |

資産の部: 流動資産では期末売上の増加により売上債権が増加しました。固定資産では新本社・大阪工場の土地・建物購入に伴い、有形固定資産が増加しました。

負債の部: 上記資産購入のための借入れにより、短期・長期とも有利子負債が増加しました。

資本の部: 公募増資により資本金及び資本準備金が増加しました。

品目別売上高推移(連結)

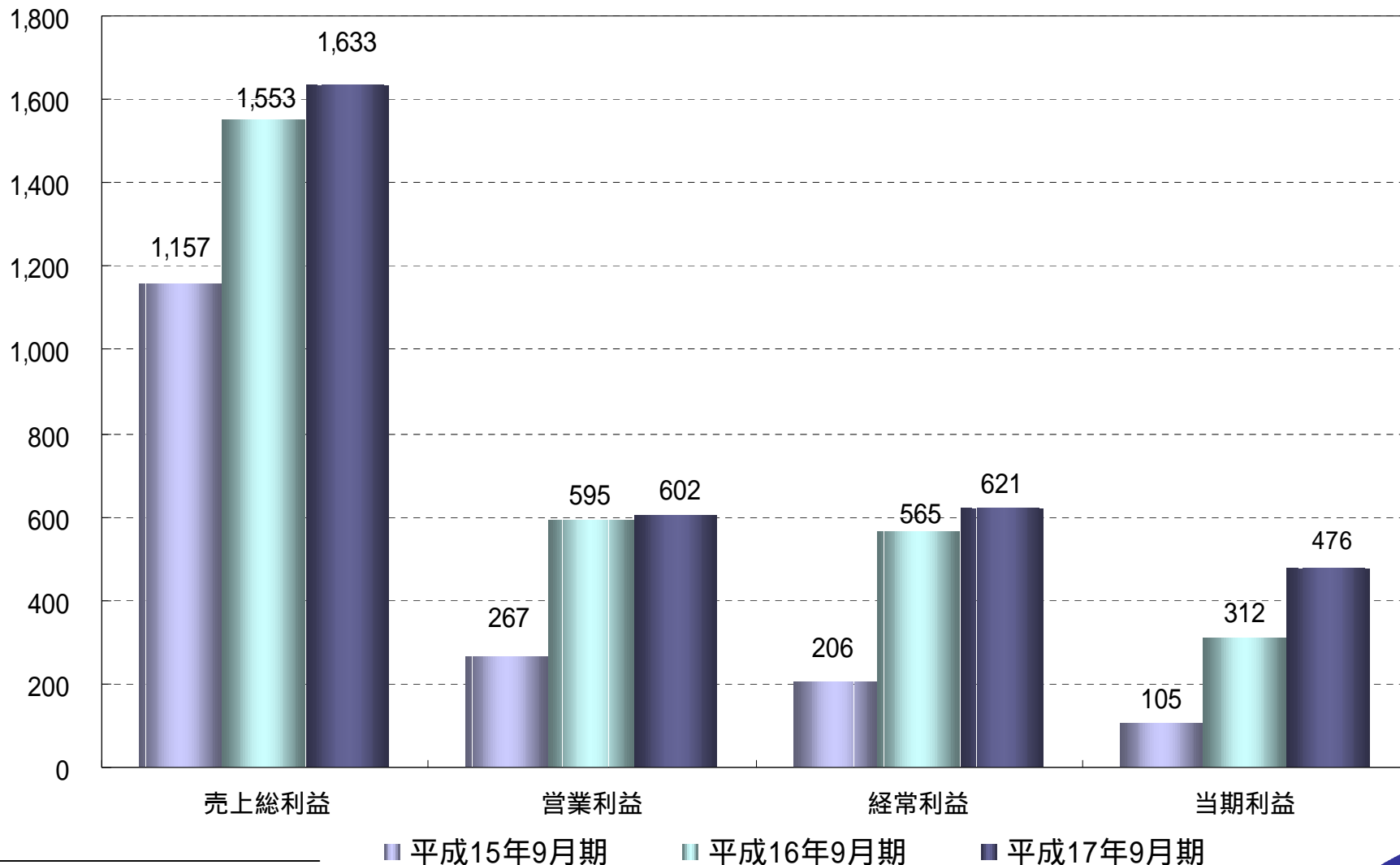


段階利益推移 (連結)



(百万円)

高収益体制の実現



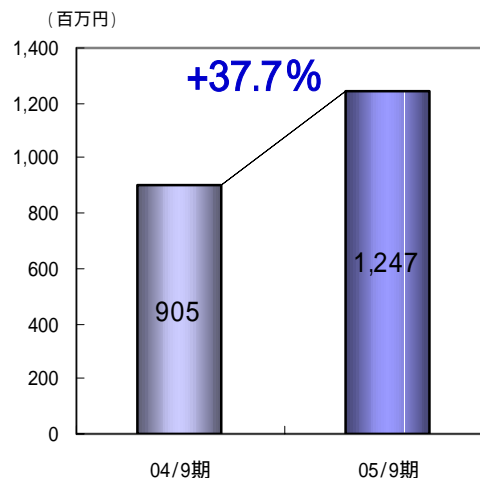
振動シミュレーションシステム



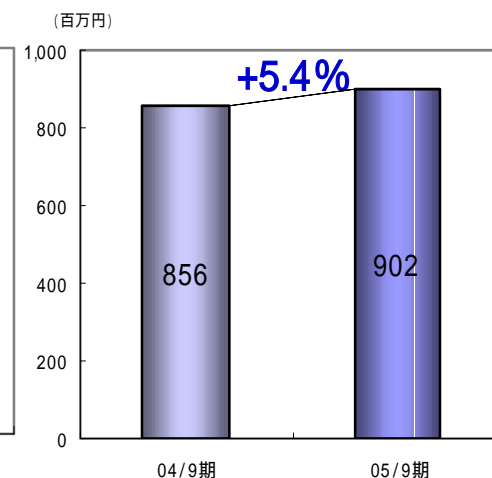
(単位:百万円)

| | 04/9期 | 05/9期 | 増減額 | 増減率 |
|----------------|-------|-------|------|--------|
| オールウェザー / 単軸 | 831 | 1,132 | +300 | +36.1% |
| オールウェザー / 多自由度 | 73 | 115 | +41 | +55.7% |
| ノーマル / 単軸 | 856 | 818 | 37 | 4.4% |
| ノーマル / 多自由度 | 782 | 787 | +5 | +0.7% |
| その他・修理 | 573 | 821 | +248 | +43.4% |
| 合計 | 3,117 | 3,674 | +557 | +17.9% |

オールウェザー
シミュレーションシステム



多自由度
シミュレーションシステム



- 振動以外の環境要素と同時に試験を行うことが出来る「オールウェザーシミュレーションシステム」や、より実振動に近い振動環境を再現する「多自由度シミュレーションシステム」が貢献し、前期より557百万円増収の3,674百万円となりました。
- 多様化する顧客ニーズを充足するためシステムの高度化を進めており、被試験体を複数の方向から同時に加振する画期的な「多点・多軸シミュレーションシステム」を納入するなど技術革新に努めております。

メジャリングシステム

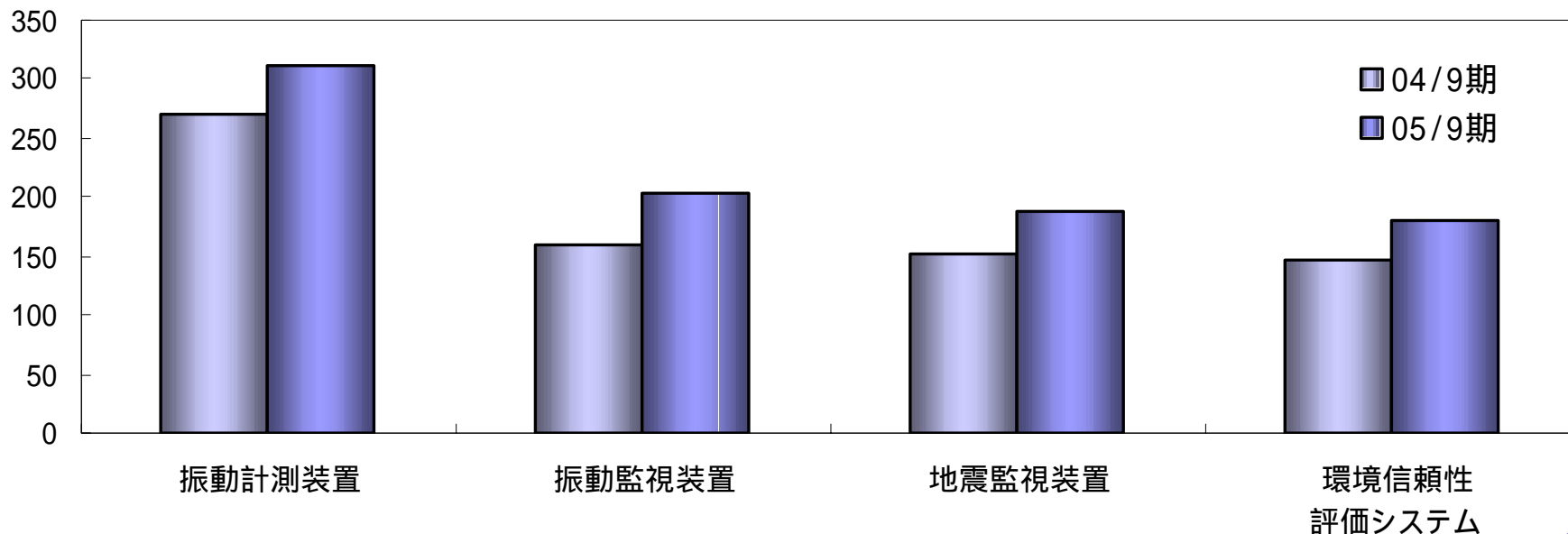


(単位:百万円)

| | 04/9期 | 05/9期 | 増減額 | 増減率 |
|-------------|-------|-------|------|--------|
| 振動計測装置 | 269 | 312 | +42 | +15.8% |
| 振動監視装置 | 159 | 204 | +44 | +27.8% |
| 地震監視装置 | 152 | 187 | +34 | +22.9% |
| 環境信頼性評価システム | 146 | 179 | +32 | +22.6% |
| その他・修理 | 149 | 175 | +26 | +17.6% |
| 合計 | 877 | 1,059 | +181 | 20.7% |

- 全ての商品群が成長しております。特に、プラント向けが好調だった振動監視装置、12軸乗り心地評価システムや海外OEMが好調だった振動計測装置が貢献しました。
- 前期より事業を本格化させた環境信頼性評価システムは、新製品が寄与し順調に成長しております。

(百万円)



テスト&ソリューションサービス



(単位:百万円)

| | 04/9期 | 05/9期 | 増減額 | 増減率 |
|---------|-------|-------|-----|----------|
| 東京テストラボ | 328 | 318 | 9 | 3.0% |
| 大阪テストラボ | 1 | 31 | +29 | +1595.7% |
| 子会社外部売上 | 10 | 4 | 6 | 62.1% |
| 合計 | 341 | 354 | +13 | +3.9% |

- 東京テストラボがフル稼働の状況にあったため、6月に大阪テストラボを新設しました。これまで、遠方のために利用を躊躇していた西日本のお客様を中心に活発な引き合いを頂いております。
- 今期増強した試験設備は以下の通りです。

【東京テストラボ】

- ・大型シミュレーションシステム

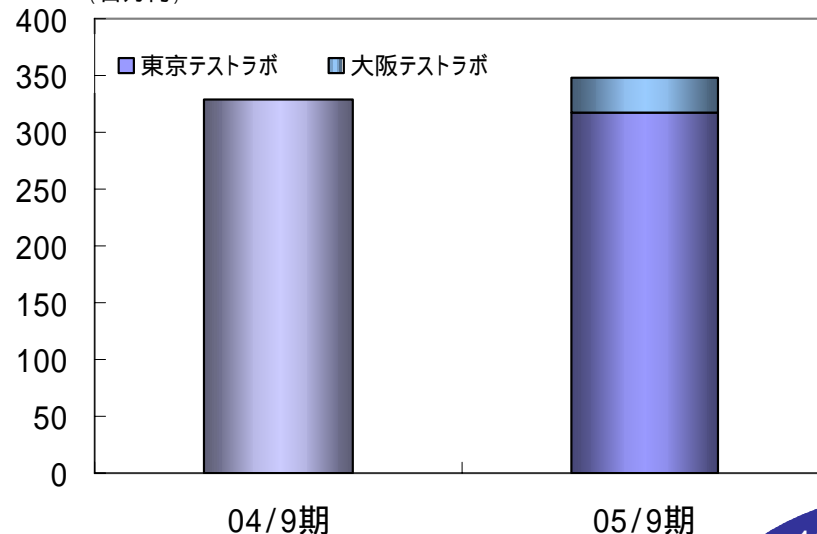
【大阪テストラボ】

- ・大振幅対応大型シミュレーションシステム
- ・オールウェザーシミュレーションシステム
- ・他6台



大阪テストラボ テストラボ棟外観

(百万円)





その他全社トピックス

- 本社・大阪工場移転
- JASDAQ上場
- 展示会出展
 - JPCA Show 2005
 - エレクトロテスト・ジャパン
 - TEST 2005
 - 世界免震制振セミナー技術展示会
- FA制度 / ジョブローテーション制度制定



業績予想と 今後の戦略

SECURE THE FUTURE
IMV CORPORATION

連結業績予想



(単位:百万円)

| | 05/9期実績 | 06/9期予想 | 増減額 | 増減率 |
|-------|---------|---------|-------|--------|
| 売上高 | 5,088 | 5,703 | +615 | +12.1% |
| 経常利益 | 621 | 700 | +79 | +12.8% |
| 当期利益 | 476 | 414 | 62 | 13.0% |
| 設備投資 | 2,212 | 180 | 2,032 | 91.9% |
| 減価償却費 | 176 | 288 | +111 | +63.5% |
| 研究開発費 | 129 | 143 | +13 | +10.4% |
| 従業員 | 175 | 185 | +10 | +5.7% |

全品目の売上増加により、対前期比615百万円の増収(対前期比12.1%増)

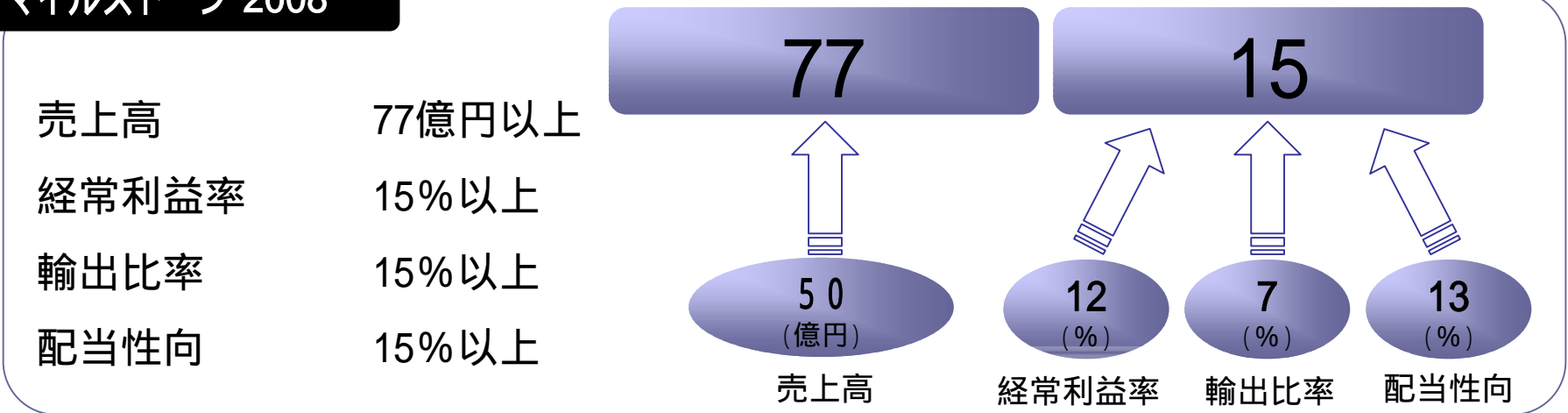
償却負担の増加があるものの、経常利益は79百万円の増収(対前期比12.8%増)

特別利益を見込んでいないことで、当期利益は62百万円の減少(対前期比13.0%減)



中期事業計画「PRESTO 7715」の概要

マイルストーン 2008



基本戦略





基本戦略

管理・情報システム戦略

- ・基幹情報システムの再構築とアカウントセンター設置
- ・タイムリーディスクロージャーによる認知度向上

人事・総務戦略

- ・FA制・ジョブローテーションによる継続的な人材育成
- ・有能な人材のリクルーティング強化
- ・次世代経営者養成

財務戦略

- ・グループ経営と株主価値向上に向けた資本政策の実施
- ・経営環境の分析とリスク管理の強化

基本戦略

- ・企業価値と認知度の向上
- ・株主価値の向上
- ・周辺事業領域の拡大と取り込み
- ・分社化とグループ経営の推進
- ・経営管理機能の強化とCSRの実践

販売戦略

- ・海外営業部門の強化
- ・システムの高度化に伴う営業員の再教育
- ・販売網の選択と集中（取引条件の見直し）

生産戦略

- ・工場間の生産品目移管による効率化
- ・周辺装置の製造技術開発と内作化
- ・リードタイムの短縮

R&D戦略

顧客要求に応える高度化技術開発

環境配慮の技術開発

- ・高効率省エネアンプの完成
- ・インテリジェント・システム・マネージメント技術の確立
- ・新型地震計の開発

基盤技術開発

- ・センサー校正技術
- ・輸送試験における新試験手法



システムの高度化に対応

オールウェザーシミュレーター

(振動・温度・湿度・圧力・降雨・空気脈動など
様々な環境因子の複合シミュレーター)

多軸・多点シミュレーター

(被試験体の複数の取付点に3軸同時の
振動を加える多点シミュレーター)

6自由度シミュレーター

(直行軸以外に回転振動も加えたシミュレーター)

システムの高度化

- ✓ **新技術の開発**
新型制御器の開発
インテリジェントアンプの開発
周辺装置の製造技術開発
- ✓ **高度要求への対応**
特殊仕様対応
既存製品の機能・コスト改良

“被試験体が実際に遭遇する環境を忠実に再現する”という試験リアリズムの観点に立って、多くのダイナミックシミュレーターを開発してきました。

益々高まる高度化要求に応えるとともに、オールウェザーシミュレーターについては周辺装置の製造技術開発と内作化を進めていきます。

6自由度シミュレーターは当社独自のCAT技術であり、その応用範囲は広がりを見せています。各種センサーの校正や人体振動分野へのアプリケーション開発にも取り組んでいきます。

基盤技術開発として試験規格そのものにも着目し、外部研究機関との連携により従来概念にとらわれない新たな試験手法の開発を進めていきます。

新製品の開発でシェア拡大



地震計

イオンマイグレーションテスター

新製品の開発

- ✓ 4機種フルモデルチェンジ
- ✓ 気象庁認定
- ✓ 計測震度計のリプレイス需要に対応

- ✓ パルスMIG
- ✓ インピーダンスMIG
- ✓ 高電圧MIG

地震計

地震が多発するわが国では社会インフラの整備と平行して防災対策は重要な課題の一つです。当社の地震計は、災害発生時の上下水道・半導体工場・発電所などの緊急遮断に広く活用されています。

しかしながら、今後の地震計に求められる市場ニーズは変化しています。

小型高精度化 / 加速度から計測震度の計測へ / 実被害に対応したSI値計測 / ISDN通信網からIP (LAN / WAN) 対応へ。当社は市場ニーズに対応した新しい地震計のラインアップを開発し提供していきます。

イオンマイグレーションテスター

自動車におけるハイブリッド化・燃料電池化・電装品比率の増加、さらにはデジタル家電化などの変化を受けて、新材料や新実装技術のスピーディーな評価が求められています。

信頼性評価のスピードアップや試験条件の多様化に応えるテスターの開発が望まれています。これら要望に応えるため、新型テスターの開発を複数進行させており、今後新製品として投入していきます。

テストラボ サイト拡大へ



増加する需要に独自技術で対応

お客様がテストラボを利用される理由

- ・設備が不足している
- ・現有設備では能力や機能が不足している
- ・設備はあるが使用できる技術者が不足している
- ・シミュレーターが複雑化し、対応できる技術者を養成できない
- ・特殊な試験のため、試験できる施設が他に見当たらない
- ・試験仕様をどのように決めたらよいか分らない
- ・どのように試験をすればよいか分らない

試験需要の拡大

独自技術によるソリューション

大阪テストラボの垂直立上げ

- ✓ 設備の増強
 - 他社にない設備を導入し差別化
 - 汎用機を増強し公的機関との価格差是正
- ✓ プロモーション強化
 - インターネット、キャンペーン、顧客訪問
- ✓ 独自技術による顧客の囲い込み
 - IMVでしかできない試験

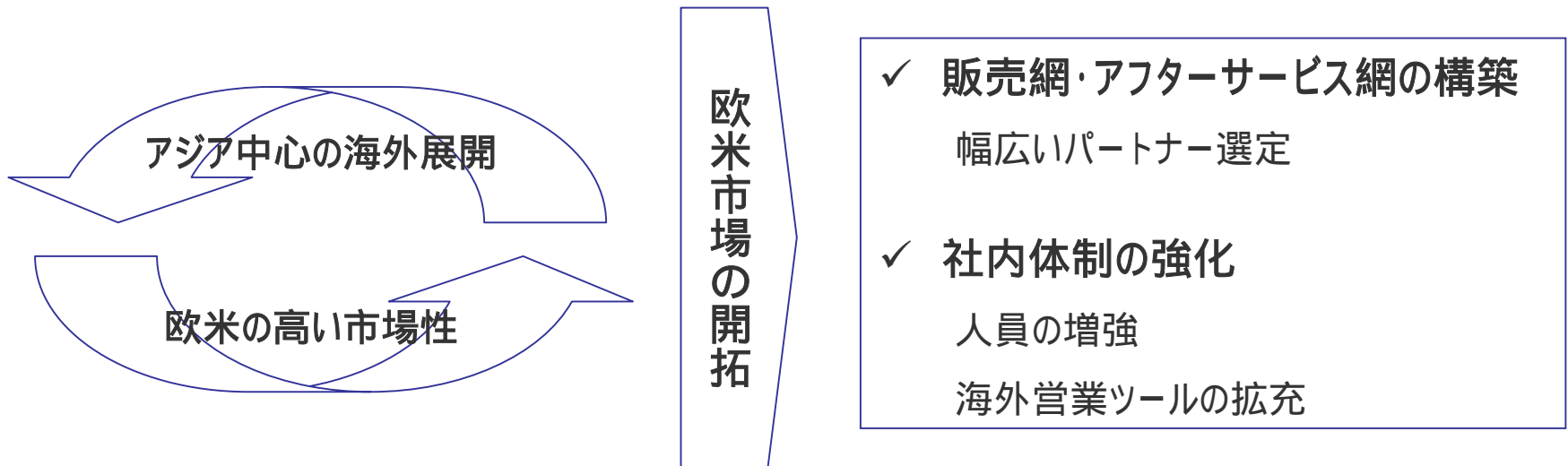
当社テストラボでは単純な試験受託に加え、従来は実施困難であった試験についてもユニークなアイデアと高度技術を駆使してそれを可能にまいりました。例えば試験品の形状が複雑で大きいため、現存する設備では到底実現できなかった試験についても、マルチコントロール技術(独自技術)を活用し、普通の試験機を複数同時に運転することによりこれを実現させるなど、お客様の要望にお応えしています。

技術伝承が困難になってきていること、また開発リードタイムの短縮といった環境変化が急速に進んでおり、すべての試験を企業内で実施すること自体が困難になってきています。これらを背景に、益々増加する需要に高度技術で対応していきます。

海外事業部を新設



海外営業部を営業本部から独立



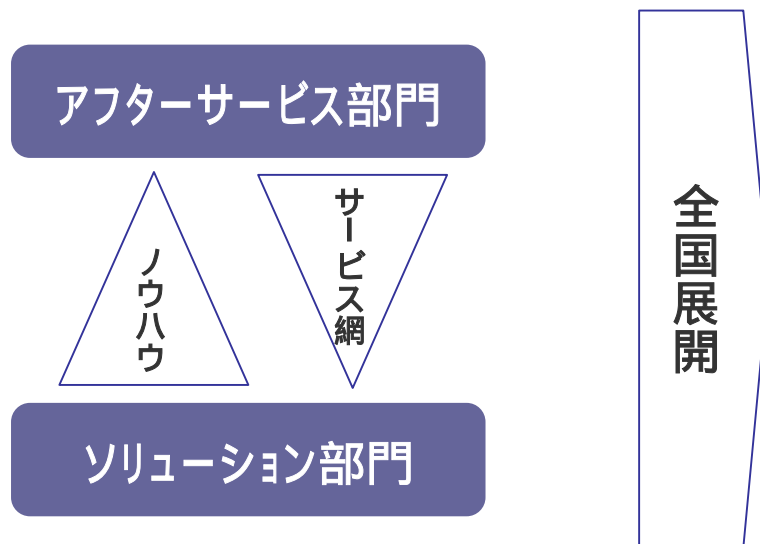
当社の輸出比率は約7%程度で、そのほとんどが東南アジア向けとなっています。日本を代表する自動車産業の技術革新に伴って、その基盤となる試験技術も世界のトップクラスに成長してきており、欧米諸国と比較しても十分なアドバンテージを有するシミュレーターを提供できるレベルになりました。

これら差別化できたシミュレーターを武器に海外市場への製品販売を強化するとともに、海外では大きな市場を形成するテストラボ事業において、現地メーカーとのコラボを推進し、製品販売とのシナジーを図っていきます。

エンジニアリングサービス部を新設



アフターサービス部門とソリューション部を統合



- ✓ **ソリューション事業の強化**
 - 人員の増強・育成
 - アフターサービス部門との融合
 - 専門機関との連携
- ✓ **メニューの多様化**
 - 加振治具の設計製造販売
 - 実験室の防振・防音設計施工
- ✓ **振動解析ソフトの開発販売**
 - 既存製品の継続的バージョンアップ

ソリューション部門は顧客の振動問題解決を全面的に引き受け、現場における計測、解析、及び改善提案まで数多くの仕事を手掛け、ノウハウを蓄積してきました。

全国展開するアフターサービス網とソリューション事業を融合することで、フィールドにおける振動問題の解決に対し、機動的に対応することが可能となり、蓄積したノウハウの全国展開により事業を拡大していきます。



本資料お取扱上のご注意

本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。投資に関する決定は、ご自身のご判断において行われるようお願いいたします。

本資料を作成するに当たっては正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保障するものではありません。本資料中の情報によって生じた障害や損害については、当社は一切責任を負いません。

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となることをご承知おきください。